

## 渡来文化の受容と古代墳墓

福岡澄男（元大阪府文化財センター理事）

弥生時代以来、古代中国や朝鮮半島からの渡来文化受容に伴い、墳墓にもいろいろな形で渡来文化が反映されている。弥生墳墓に副葬された朝鮮半島製の武器型青銅器や多鈕細文鏡、あるいは中国漢代の鏡、そして古墳に副葬された三国時代の中国鏡などはその顕著な例である。5世紀初め頃をさかいに、それ以前よりもはるかに多くの文物が朝鮮半島諸国から将来されるようになった。私はこの段階の渡来文化の性格を、軍事に関わるような上層（支配）階級が独占した物と、カマドなど下層（被支配）階級も使用消費したものであるという風に整理している。当初は前者であったが、その後の歴史において後者の性格を持つにいたった文字は社会の発展にとって最も重要なものであった。私達の祖先は新しい渡来文物を受容消費するだけでなく、選択的に受け入れ、自ら生産するようになった。そこには渡来民の力が大きく関わっているが、列島社会が生み出した変容が認められるのも事実である。

6世紀の中頃に百済から伝来した仏教は、宗教、学問、思想、精神といった面に全く新たなページを加えたものであり、それ以前の、広い意味での道具とその製作技術中心の物質文化受容とはあきらかに一線を画するものであった。奈良時代には諸国に国分寺が造営され、地方にも広く仏教文化がいきわたった。同時代の墳墓には当然ながら仏教の影響が認められる。

7・8世紀、飛鳥奈良時代には遣隋・遣唐使が派遣され、留学生らによって律令の制度をはじめ多くの経典、書物など最先端の知識が将来された。こうした事態もまた同時代の墳墓に多少にかかわらず反映されている。

今回の発表では飛鳥・奈良時代を中心とした墳墓に見られる渡来文化の影響を、仮に1. 仏教的要素の反映、2. 中国的葬禮の反映、3. 文学的、世俗的思想の反映という言葉で整理して考えることとする。このような見方をすることによって、その物の形態的研究だけでは理解が困難な断片的資料、現象についても、その本質、意味を理解できるものがあると思う。

### 1. 仏教的要素の反映

1-1. 石棺や陶棺に付された蓮華文は理解しやすい指標であるが、今回は次の2点を主として検討する。

- ・鳥取県蔵見3号墳の鴟尾付陶棺
- ・大阪府塚廻古墳の緑釉棺台

1-2. 僧道昭にはじまる火葬は後の葬制に大きな影響を与えたが、火葬された初めての天皇である持統天皇と夫天武天皇の合葬陵を検討する。

1-3. 奈良時代の高僧行基の墓について検討する。

### 2. 中国的葬禮の反映

2-1. 高松塚、キトラ両壁画古墳について検討する。

2-2. 喪葬令と墓碑、墓誌、買地券等について、太安万侶墓誌や新たな資料等を検討する。

### 3. 文学的、世俗的思想の反映

3-1. 唐（式）鏡副葬の背景を検討する。

3-2. 割った唐鏡を副葬した京都府安祥寺下寺跡古墓（安朱古墓）について検討する。

### 4. 日本的葬制の進展